

登録コード	UAF16500	開講年度	2026				
授業題目	認知工学演習					担当教員	森下 孟
						副担当	
単位数	2	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学，2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学，2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学，2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					⇔	認知工学や教育学に関する理論と技術を学び，心理学的視点から教育の情報化や学習支援システムを理解できる。認知プロセスと情報技術の関係を分析し，VR・AR・CSCWなどの先端技術が学習や協働に与える影響を検討できる。さらに，教育現場におけるICT活用の実態や課題を，認知心理学や学習科学の視点から評価し，効果的な学習環境の設計に活かせるようになる。
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に，地域・社会・経済の抱える課題について，課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは，心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。					⇔	認知工学や教育学に関する理論と技術を学び，量的・質的分析の手法を習得するとともに，地域・社会・経済が抱える教育課題を解決するために必要な情報を収集・分析できる。CSCWやVR・ARなどの先端技術を活用した学習支援の事例を基に，心理学的視点から教育の情報化を評価し，多面的なアプローチで課題解決策を検討できる。
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し，地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら，独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは，心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。					⇔	認知工学や教育学の理論と技術を学び，地域・社会が抱える教育課題に対して，科学的な視点から総合的な解決策を提案できる。VR・ARやCSCWといった先端技術の活用を通じて，教育や学習環境の改善に向けた独創的なシナリオを設計できる。また，多領域のステークホルダーと協働しながら，効果的な支援策を立案し，実践可能な提案を行う力を身につける。
(2)授業の概要	全国のなかで先進的にICTを活用している幼稚園，小中高等学校などを訪問し，その授業や教育活動を参観する。授業などの参観を通じて学んだことや考えたことなどを各自がレポートにまとめ，その内容をもとに全体でディスカッションを行う。						
(3)授業計画	第 1 回：ガイダンス：認知工学の視点からみた教育実践研究 第 2 回：幼稚園，小学校におけるICT活用教育授業の検討①：課題分析 第 3 回：幼稚園，小学校におけるICT活用教育授業の検討②：教材分析 第 4 回：幼稚園，小学校におけるICT活用教育授業の参観①：導入と学習目標 第 5 回：幼稚園，小学校におけるICT活用教育授業の参観②：展開と学習過程 第 6 回：幼稚園，小学校におけるICT活用教育授業の参観③：終末と教育評価 第 7 回：認知工学的視点からみたICT活用教育（幼稚園，小学校）に関する討議 第 8 回：中学校，高等学校におけるICT活用教育授業の検討①：課題分析 第 9 回：中学校，高等学校におけるICT活用教育授業の検討②：教材分析 第10回：中学校，高等学校におけるICT活用教育授業の参観①：導入と学習目標 第11回：中学校，高等学校におけるICT活用教育授業の参観②：展開と学習過程 第12回：中学校，高等学校におけるICT活用教育授業の参観③：終末と教育評価 第13回：認知工学的視点からみたICT活用教育（中学校，高等学校）に関する討議 第14回：認知科学と学習科学の理論と授業づくり 第15回：授業の総括 期末試験の有無 無（最終レポートの提出をもって充てる）						
(4)成績評価の方法	・ 授業参観レポート（計 2 回・50%），最終レポート（50%）を総合して評価する。 ・ 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可						
(5)成績評価の基準	「卓越している」：授業参観レポートでは設定したテーマの認知工学について自己の関心や教育界の動向に基づいて詳細に調査して深く考察しており，グループ討論ではディスカッションに積極的に参加して他の学生の意見を引き出しつつまとめ役をしている。 「かなり上である」：授業参観レポートでは設定したテーマの認知工学について詳細に調査して考察しており，グループ討論ではディスカッションに積極的に参加しつつ他の学生の意見を引き出している。 「やや上にある」：授業参観レポートでは設定したテーマの認知工学について調査しており，グループ討論ではディスカッションに積極的に参加している。 「水準にある」：授業参観レポートでは設定したテーマの認知工学について調査しており，グループ討論ではディスカッションに参加している。						
(6)事前事後学習の内容	・ 事前学習としては，eALPSにアップロードしてある配布物を事前にダウンロードしたり，eALPSに掲載してある関連URLからWebサイトを閲覧したりすることによって，問題意識を明確にしたうえで授業に参画する。 ・ 事後学習としては，授業参観などで学んだことなどをeALPSに記入し，学生間で共有できるようにする。						
(7)履修上の注意	・ 「認知工学特論」を履修済み，あるいは履修中であること。 ・ ICT活用教育授業の参観では，県内外の幼稚園，小中高等学校を訪問する。そのための移動手段の確保や旅費・宿泊費などの負担については，受講生が各自で行う。 ・ 参観態度が著しく悪く授業担当者や関係者の指示に従わない場合は，受講を中止してもらう場合がある。						
(8)質問,相談への対応	森下研究室 次世代型学び研究開発センター2F 内線電話：831-4245 オフィスアワー：（前期・後期）メール予約で随時対応 E-mail：morisita@shinshu-u.ac.jp						

【教科書】	指定しない
【参考書】	大島純・益川弘如（編著），学びのデザイン：学習科学，ミネルヴァ書房，2016年，2,700円＋税